

対馬から大型ミズムシ (Hesperocorixa属) 2種の記録

境 良朗・大庭伸也

ミズムシ科 (Corixidae) の中で大型種で構成されるミズムシ属 (Hesperocorixa属) は日本から4種が知られている (中島ら, 2020)。この内, 長崎県においては本土域からオオミズムシ *Hesperocorixa kolthoffi* (大庭ら, 2019), 離島の福江島からはホッケミズムシ *Hesperocorixa distanti hokkensis* が記録されている (安永ら, 1989)。筆者らは対馬においてホッケミズムシとオオミズムシを確認することができたので報告する。合わせてホッケミズムシについては対馬産特有の変異が認められたので, その概要を書き留めておきたい。

1 ホッケミズムシ *Hesperocorixa distanti hokkensis* (Matsumura, 1905)

【採集データ】

- ・1♀, 14-XII-2019, 上県町佐護 大庭採集

川沿いのワンドで採集した。標本はDNA分析用に三田村敏正氏に提供している。

- ・1♀, 8-IV-2020, 美津島町犬吠 境採集保管

- ・5♂5♀, 14-IV-2020, 美津島町犬吠 境採集保管

対馬では水生昆虫が生息する止水域は少ないが, 1アールほどの溜池から得られた。



写真1 ホッケミズムシ♀背面



写真2 ホッケミズムシ♂腹面



写真3 ホッケミズムシ♀腹面

対馬産の変異

①♂前脚先端附節

得られた♂の体長9.3~10.0mm (♀10.0~10.8mm)。前胸背には♂♀ともに8本の黒色横帯が認められた (写真1~3)。♂の前脚先端附節の形状とペグ列は種を同定する上で重要な部位である。三田村ら (2017) に記載されている本種のものと比較すると, 対馬産はペグ列はほぼ一致するが, 先端附節全体の幅が狭く細長く見える (写真4)。交尾器は石川県産のものと一致するという (写真5・6) (渡部氏私信)。



写真4 ♂前脚先端附節・ペグ



写真5 ♂交尾器

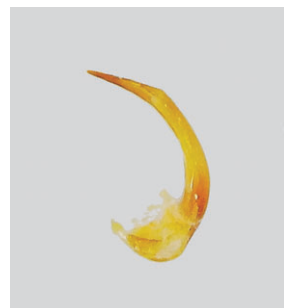


写真6 パラメアに挟まれた部位

②後胸腹板剣状突起

後胸腹板剣状突起の形状も本属の種間で違いがあるが、対馬産は本土域のものほぼ一致する。しかし、他産地と大きく異なるのはその一部が黒化することである。この変異は今回記録された2産地の全ての個体に認められたことで、対馬産に特有の変異ということができよう（写真7・8）。個体間で黒化にある程度の差はあったが、性差による違いは認められなかった。日本のホッケミズムシは亜種 *ssp.hokkensis* に括られているが、本種が対馬で見つかったことで大陸の基亜種、とりわけ韓国産との関係に興味を持たれる。韓国産にも同様の変異が見られるとすれば、対馬の個体群は大陸由来ということが推測される。



写真7 雄後胸腹板剣状突起



写真8 雌後胸腹板剣状突起

2 オオミズムシ *Hesperocorixa kolthoffi* (Lundblad, 1933)

【採集データ】

・2♀, 14-IV-2020, 美津島町犬吠 境採集保管

体長13.0~13.3mm。本種の前胸背黒色横帯は10~11本というが（中島 他, 2020）, 採集した2個体ともに9本であった（写真9~11）。更に多くの個体で検証する必要がある。ホッケミズムシと同時に採集されたが♂は未見である。



写真9 オオミズムシ♀背面



写真10 オオミズムシ♀腹面



写真11 前胸背黒色横帯

最後になるが、後胸腹板剣状突起の黒化についてご指摘頂くとともに交尾器等についてもご教示いただいた渡部晃平氏、極東ロシアの検索図を提供頂いた林成多氏、全般にわたりご教示いただいた平澤桂氏に謝意を表す。

引用文献

- 中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富博之, 2020. ネイチャーガイド日本の水生昆虫 文一総合出版 東京
- 三田村敏正・平澤 桂・吉井重幸, 2017. タガメ・ミズムシ・アメンボ ハンドブック 文一総合出版 東京
- 大庭伸也・村上 陵・渡辺黎也・全炳徳, 2019. 長崎県南部の学校プールに形成される水生昆虫類相の成立要因. 日本応用動物昆虫学会誌 63: 163-173.
- 安永智秀・浦田明夫・江島正郎, 1989. 長崎県の異翅半翅類. 長崎県生物学会編, 長崎県の生物, pp. 221-228. 長崎県生物学会, 長崎.